

### 第三者評価結果

事業所名：にじいろ保育園青葉台

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画は、保育方針、保育目標を基本に保育に関わる職員が参画し、発達過程の共通理解のもと作成している。子どもの発達の順序性や連続性を踏まえ長期的な視野を持って見直し、0歳児から6歳児までの作成をしている。特に地域子育て支援の重要性を視野に園内外での交流計画を全職員で認識し協力体制を取っている。</li> <li>・全体的な計画は、保護者アンケートの意見や、職員の自己評価からの課題や充実させたい部分を取り入れ全職員で話し合いを行い、養護と教育を一体とした保育を考慮して編成している。</li> <li>・作成した年間指導計画から、クラスの年間計画、月間指導計画、および週間指導計画へと落とし込んでいる。</li> </ul>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症を踏まえ、室内の換気・温度・湿度などに注意を払いチェック、声かけをしている。また、室内の清掃、玩具の消毒を行い確認チェックしている。特に子どもが舐めたりしたおもちゃは分別してカゴに入れ洗浄を行っている。</li> <li>・保育所内外の設備・用具は破損などないか安全が保たれるよう点検し、寝具に関しては年度始めに布団の打ち直しを行い、年2回以上、業者による布団乾燥を行っている。また、必要に応じて天日干しをして衛生管理に努めている。</li> <li>・午睡中の採光には特に注意を払い、寝入った後はカーテンを開けるなど暗くなり過ぎないようにして寝ているようす、顔色が確認できるようにしている。</li> <li>・手洗い場、トイレは毎日清掃を行い、幼児トイレには扉が付いておりプライバシーを保護している。1、2歳児のトイレについてはトイレでの排泄に興味を持つ時期でもあるので、子どもの使いやすいゆったりとした環境づくりに心がけている。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園の保育理念として、子ども一人ひとりの声や姿、行動を受容する保育を大切にしている。年齢別の適切な言葉掛けや、乳児期に見られる「ジブデ」の声を受けとめ、見守る事を大切にして保育しており、子ども同士のトラブルなどには、「欲しかったんだよね!」と子どもの思いを言葉にしたり、「いやだったんだよね!」と気持ちを代弁したりして、子どもの仲介役として保育士が関わりを持てるようにしている。</li> <li>・文化の違う家庭にもそれぞれを尊重して関わり、配慮できるようにしている。また、毎月記入する月案の人権については職員間で話し合い共有している。子ども一人ひとりの発達を保育者がしっかりと見極め、個々に合った対応をすることを大切にして保育を行っている。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが基本的な生活習慣を身につけることができるように、乳児クラスでは、牛乳パックで靴入れや帽子入れを作り、自分の持ち物を分かりやすくしたり、衣服の着替えがしやすいように牛乳パックでベンチを作りはきやすい環境を作っている。</li> <li>・幼児クラスでは、一人ひとりのロッカー内の引き出しに衣類の絵を描いたパネルを敷き、自ら整理しやすいようにしたり、自分の持ち物を自分で管理整頓できるように日々一緒に確認し、意識が持てるようにしている。</li> <li>・午睡の時間には、乳児クラスでは午前寝などさせ、一人ひとりの生活のリズムを掴み、健康に過ごせるように配慮して十分に休息がとれるような関わりをしている。</li> <li>・登園時や夕方園庭から戻ってからの手洗いが行き届かない時があるので、さらに声掛けなどをして充実させることが望まれる。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが主体的に活動できる環境づくりのため、保育園独自の日々の連絡表に各クラスの主活動、内容、ねらいを記入して全職員が共有し連携して活動している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の中でも時間を調整して密にならないように体制を取り、毎日、園庭で遊んだり、水遊びを行っている。</li> <li>・製作活動ではトイレトペーパーの芯、ティッシュの空き箱など廃材を使い、切ったり、つなげたりして子どもが作りたいもののイメージを共有しながら作品を作る事を楽しめるよう工夫している。また、スケッチブックやクレヨンを個人持ちにして使いたい時に自由に使えるようにして、意欲を駆り立て、個々の表現活動を大事にしている。乳児は大きな模造紙を使い、皆で大きく腕のチカラでなぐり描きして、子どもが思いのまま描きながら楽しむことを大切にしている。</li> </ul>	

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・0歳児の保育の中では、子どもとの愛着関係築くため、抱っこやおんぶをして身体にたくさん触れたり、ふれあい遊びを通してスキンシップをとるようにしている。
- ・入園初期は家庭との連携として食材表だけでなく食材ファイルを作り、食材の進み、食べ具合、形態について家庭と園での様子を詳しく共有して進めている。また、授乳の際は子どもへ眼差しを向け、落ち着いた雰囲気を作るよう配慮している。
- ・保育室内は子どもの手の届く所におもちゃを置き、子どもたちが自分で遊びたいとおもちゃに手を伸ばし触れられるようにしている。
- ・保育は担当制で行い、個別月案を立てて、その日の活動の様子を連絡帳アプリ(ナナボケ)で知らせたり、送迎時には出来るだけ口頭で伝えて、保護者との信頼関係を築くように努めている。

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・子どもたちの「ジブンデ」の気持ちを引き出せるよう着脱では靴下を自分で脱いでみることから始め、靴を履こうとしたり、服の袖を通そうとしたりするような声掛け、援助を行っている。2歳児クラスではロッカーのかごに入ったTシャツ、肌着、ズボンを自分で選んで着脱出来る環境をつくっている。
- ・園庭での活動では園庭遊びの前にはしっかりと整備を行い、危険なものが落ちていないか、おもちゃの破損はないか点検を行っている。
- ・子どもたちが園庭に出て花壇に咲いた花を見たり触ったり、アリやダンゴムシを見つけて器に入れて観察したりするなど、探索活動を行っている。
- ・友だち同士の関わりでは保育士は必要に応じて仲介に入り、子どもの気持ちや思いを汲み取り、言葉に変えるなどして伝えて仲立ちをしている。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・昨年度より、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年は閉めている部屋のパーテーションを全て開けて保育を行っている。必要に応じてエアコンをかけ、窓を開けて換気するなどの工夫をしている。
- ・幼児クラス共通で、遊びたい玩具を取り出しやすい場所に置いたり、コーナー作りをして子どもたちが十分に遊び込めるような環境設定に力を入れている。年齢に合わせた玩具や遊びを準備し、保育者は見守りながら、時には加わって遊びを展開させているなど援助している。5歳児は、夕涼み会や運動会などの行事を通して楽しみながら計画を立てて一つのことをやり遂げる機会を設けている。
- ・子どもの育ちや取り組んできた共同的な活動などについては、保護者には連絡帳アプリ(ナナボケ)やおたより、保護者懇談会などでエピソードを含めて伝えている。

<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・階段やエレベーターにバリアフリーの点字や点字ブロックを設置し、安全面に配慮して障害のある子どもが安心して生活できるような環境設定を行っている。
- ・障害のある子どもに対しては、個別日誌にその日の様子を記入して、日々の保育に活かしたり、職員間で共有して統一性のある対応を行っている。落ち着かない時でも決して否定をせず、声を掛けたり寄り添ったりしながら落ち着けるように関わりを持っている。
- ・気になる子どもの保護者に対して、療育を薦めてみたり、臨床心理士による巡回相談を行っている。また、必要に応じて個人面談を行い、子どもの様子を共有できる機会を設けている。小さな時期から愛着形成を保てるように、保護者の方にも関わりを持って協力してもらうように声掛けをしている。
- ・突発的に動く子に対し安全のため階段のドアを閉める対応をしているが、ドアの取り扱い方法の見直しや障害児研修を通してより良い対応を考えている。

<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・延長利用の子どもたちは、朝夕共に1歳児室で過ごしている。延長保育の時間は静かに過ごせる環境作りを基本として家庭的な雰囲気を感じられる空間や玩具(積み木、お絵描き、ままごと、絵本など)を用意し、室内でできる遊びを工夫して取り入れている。
- ・年齢の異なる子どもたちを見守る中で、個々の遊びの保障と共に一緒に遊び、関わりを楽しめるように配慮して、0歳児には授乳や睡眠の保障ができるようにしている。
- ・夕食や夕補食は手作りの物を提供して、提供時間に合わせて温めるなどしておいしく食べられるようにしている。
- ・クラスや年齢がさまざまな子どもたちの見守りから、補食の提供、保護者への引き渡しまでを担当するため、引き継ぎの情報など屋礼や登降園連絡表に分かりやすく記入し、担任以外も保護者への伝達ができるよう努めている。また、怪我や必要な保護者対応など状況によっては担任が行っている。

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校就学を見据えた年間計画をたて、日々の保育に取り入れている。就学に向けて、時計を見る習慣をつけられるようにしたり、ひらがな表を部屋に貼り、文字に触れられるようにしたりして環境を作っている。また、保育者や友だちと伝言ゲームなどの言葉遊びや手紙交換を楽しみ、文字に親しみが持てるようにしている。</li> <li>・小学校から「就学前に身に付いていると良い子どもの姿」をもらい、個人面談で就学に向けての取り組みなどについて保護者と共有し、子どもの生活について見通しを持てるようにしている。また、就学に向けた保護者の悩みなどの相談に対応したり、一緒に考えていく姿勢を取り対応している。</li> <li>・地域の保育園の同じ小学校に通う子年長児同士の関わりとして、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため手紙交換などの活動を行っている。</li> </ul>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルに基づき一人ひとりの子どもの健康状態を把握し、朝のラウンドで毎日健康チェックと検温チェックをしている。</li> <li>・年間計画をたて子どもへの手洗い・歯みがき・鼻のかみ方などの保健指導を行っている。</li> <li>・職員への子どもの健康状態に関する情報は毎日のミーティングの時や職員会議にて共有している。</li> <li>・保護者と子どもの健康に必要な情報が得られるように、健康の記録用紙を活用し健診の結果や予防接種の有無など情報共有を行っている。</li> <li>・SIDSに関して、保護者へは毎年手紙を配布して情報の提供して、職員へは勉強会にて確認を行い共有している。また、職員にはプール活動の前には人形をモデルにしてAEDの使い方を実践で行い、感染症が流行する前の秋には嘔吐処理の研修を行うなどの取り組みを行っている。</li> </ul>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>健康診断は年2回行っている。結果は健康の記録用紙に記入し担任より保護者へ渡し情報の共有をしている。結果に問題があった場合は、看護師から保護者へ説明して対応している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科検診についても年2回行っている。歯科医に相談したいことなどは事前に聞いて対応している。また、虫歯や口腔内の異状などに関しては保護者と連携し治療に向けて、進捗状況を確認している。</li> <li>・歯科検診終了後には歯科医による歯みがき指導を行っている。4、5歳児には染め出しを行い、歯の汚れをわかりやすくして歯磨きの認識を促している。</li> <li>・手洗い指導はブラックライトを使用し手洗いがちゃんとできていない所を視覚的にも子どもたちからわかりやすい指導などを行っている。</li> </ul>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は除去食を行っているアレルギー・慢性疾患児はいないが、必要時には保護者と連携をとり対応を行っている。</li> <li>・アレルギー対応に関しては対応フローを各クラス見やすい所に貼っていつでも対応できるように意識している。アレルギー児の食事提供にはトレーや食器を変えて他と区別し、間違わないように配慮している。毎月、次月の献立表を個別に作成し、保護者と一緒に確認、押印することで確認して実施している。</li> <li>・職員はアレルギーのガイドラインを見て、年に1回は確認を行っている。また、アレルギー・慢性疾患の児が入園した時に詳しく勉強会を行い、連携してあたっている。</li> <li>・アレルギーの研修には栄養士や調理師だけでなく看護師や保育士も積極的に受講できるようにしている。</li> </ul>	
<p>A-1-(4) 食事</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが楽しく落ち着いて食事をとれるように保育者の動きを考えて介助し、言葉を添えて味わえるようにすすめている。また、子ども達と一緒に給食を食べて、食材について話題にしたり味を共有して食への興味が持てるようにしている。</li> <li>・年長クラスには当日食べた給食を栄養士と一緒に三色食品群に色分けして、栄養についても意識付けている。</li> <li>・子どもの発達に合わせた援助をする為に、0クラスでは取手付きのマグや発達に合わせたスプーンを使用し、一人ひとりの発達に合わせて食事の形状を変えている。また、食器の大きさやスプーンは、年齢ごとに分けている。</li> <li>・摂取量については一人ひとりの食欲に応じて、小皿に取り分けてたり、食べたい量や食べられる量を調整したりしながら関わっている。</li> <li>・家庭には毎月、給食日より献立を配布し、毎日、園で提供した給食とおやつを玄関のサンプルケースに展示し知らせている。</li> </ul>	

<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;          栄養士や調理師は子ども達の食べ具合を見に行き、子ども達に味などの感想を聞いたり残飯を目視して毎日、日誌に記録している。          ・食べが悪かった献立については2回目には、調理方法を少し変えたりして工夫をしている。また、保育者が検食や給食と一緒に食べながら子どもの食べる量や好き嫌いを把握し、給食会議で共有している。          ・乳児期は特に発達を見ながら食材を刻んだり、柔らかくするなど、一人ひとりに合わせた調理を心がけている。          ・にじいる保育園共通献立にも盛り込まれているように季節を感じられる旬の食材を取り入れたり、イベントの時には行事食にしたり、お誕生日会の際にはお誕生月の子にお誕生日プレートで給食を提供している。          ・給食室内では衛生マニュアルを元に全員で共有し、毎朝衛生点検をして衛生管理に努めている。</p>	

## A-2 子育て支援

<p>A-2-(1) 家庭と緊密な連携</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;          ・家庭との連携は毎日、連絡帳アプリ（ナナポケ）を使用しながら家庭での食事、排泄、睡眠の様子、体温などを知らせてもらい、園からも活動中の個人エピソードや、クラス全体の様子を「今日の活動」として伝えている。          ・夕涼み会や運動会、お楽しみ会などの行事は密にならないように参加人数を制限するなどして行き、日々の活動の姿を保護者に見てもらう機会としている。          ・年間の保育内容は保護者懇談会、個人面談、保育参加などで知らせて共有している。クラスだよりやプリントなどで知らせ共有できるよう努めている。また、保護者の様子も気かけ、悩み事や心配事などを相談し合えるよう信頼関係の構築に努めている。</p>	
<p>A-2-(2) 保護者等の支援</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;          ・保護者が安心して子育てができるよう、連絡帳アプリ（ナナポケ）だけでなく、送迎時の口頭のやりとりで子どもの生活の様子やエピソードを伝えている。食事のことは栄養士、健康のことは看護師と、専門的な質問に答えることができる体制を整えている。          ・栄養士からは前月の給食のメニューで保護者が作りやすそう、食べやすそうなレシピを給食だよりにのせている。          ・看護師からは保健だよりの中でこれから流行する可能性のある感染症や病気について適時に伝え、感染予防に努めている。また、毎月の身体測定、園医による内科検診や歯科検診、染め出しなど子どもたちの健康状態の把握を行っている。          ・就労状況によって短時間保育、延長保育など保育時間が変わってくるため、保護者の仕事先などが変わった際には園長面談をして確認し、保護者の支援に努めている。</p>	
<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;          ・受入れ時、着脱時の身体観察、異常な不安やおびえ、不潔な身体や衣服などを観察し、日頃の保育の中で虐待の兆候をいち早く発見できるよう、親子の様子・変化などに気付けるよう、家庭での養育の状況について把握に努めている。          ・虐待の疑いがある場合には、すぐに園長に報告し、全職員へ周知して問題提起と共通理解を図り、虐待フローに基づいて速やかな対応をする体制を取っている。          ・子どもの発達、育児などについて懇談会や個人面談などを行い、保護者との共通理解を持つようにしている。          ・見守り家庭においては、担任や特定の職員が送迎時の対応を行い注意を払っている。また、各関係機関と連携し保護者の援助を行いながら、子どもの状態を把握している。          ・保育ガイドに作成されているマニュアルを基に虐待防止対応について確認を兼ね職員の研修を行っている。また外部の研修報告を受け共有している。</p>	

### A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り (保育士等の自己評価)	第三者評価結果
<p>A-3-(1)-① 【A20】 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・日誌、週案、指導計画の保育実践の振り返りを行い、全体職員会議で報告をしている。他職員の気づきや意見、感想等を貰う時間を設け次の保育へと繋がるようにしている。</p> <p>・日々の保育の中でも必要に応じクラス内で話し合いを行ない、月に一度のクラス会議では目標や保育内容の振り返りと評価、次月への取り組み、個別配慮など具体的に話し合う機会を持っている。また、乳児クラスは複数担任のメリットを活かし、より良い保育が出来るように保育士の連携の取り方など問題点があれば明確にし意見を出し合って解決の道を探っている。</p> <p>・全職員が年度初めに今年度の目標を成長支援シートを用いて、園長面談のもと設定している。半期に一度(9月、2月)振り返り自己評価を行っている。具体的な目標を立てることで職員一人ひとりの日々の保育への意欲、意識の向上へつながっている。又切磋琢磨でき園全体への活性化となっている。</p>	